



# 大樹のこころ

## 今どきの学校

11月7日(月)に学校評議員会が行われました。学校評議員である社教委員長・総代会長・学校医・主任児童委員・PTA会長をお招きして、5・6年生の代表委員が話し合いを行い、より良い学校生活を目指していくというものです。学校の代表として、6の1柴田陽向さん・大河原さくら子さん、6の2の天野翔太さん・新井こま璃さん、6の3の新井陽大さん・北川愛莉紗さん、5の1杉浦拓真さん(欠席)・安藤雅さん、5の2藤澤諒祐さん・佐藤芽結里さん、5の3の守永遠音さん・筒井莉愛さんの12名が会に参加しました。議題は「大樹寺小の良いところ・頑張っていること」です。学習や生活において子供たちが取り組んでいることを、評議員さんたちに伝えていきます。その姿が堂々としていて実に立派です。自分の考えを表現する力は、これからの時代とても大切です。こうした力を子供たちが身に付けてきていることを嬉しく思いました。

この話し合いの中で、評議員さんたちが驚かれたのが、授業や生活の様子が大きく変化していることです。特にタブレット端末の活用には興味をひかれたようでした。「友達の図工の作品をタブレット上で見ることができる」「友達にコメントをすることもできる」「自分の考えた算数の解き方を友達に見せることができる」「委員会の連絡をTeamsで行っている」といった意見が出ると、評議員さんたちは「???'といった反応となります。そこで「スクールタクトや Teams はどんなものなのか」を説明し、その利便性を伝えると感心しきりの様子でした。

また6年生の宿題のやり方についても驚いてみえました。6年生は基本的にドリル学習と「自主勉方式」を取り入れていて、自分が興味関心のあることを学習すればよいとの方法をとっています。一昔前の宿題と言えば、学校から与えられた範囲をやっていくことが主流でした。しかし、すでに習得した内容を宿題だからといって行うのは、ある意味ナンセンス。その子にとって必要な学習を進めていくのが、正解ではないでしょうか。学習習慣を身に着ける段階の中・低学年では、従来通りの宿題も大切です。しかし、高学年では、自分で自分の学びをコーディネートしていくことも求められます。こうした学校の変化は、評議員の皆様にとって新鮮に映ったようでした。

会の最後に評議員さんから「デジタルも大切だが、人と人とのコミュニケーションも大切」「人の話を聴くことが一番大切」「地域の人への挨拶も頑張ってもらいたい」といったご助言をいただきました。その言葉を子供たちは噛みしめるように聞いていました。皆様のご助言を生かして、より良い学校づくりに努めてまいります。



PTA 一家庭一支援でのあいさつ運動の一コマです。PTAの皆様のご協力で、朝から素敵な挨拶が飛び交っています。感謝です。

